

# ICT通信



令和4年11月11日

No.7

ICT環境研究開発委員会  
(文責 水井裕行)

先日は、特別支援教育センター教育研究（ICT）のアンケートと実践事例の提供へのご協力、ありがとうございました。研究協力校としての2年間の取り組みと成果については、12月に開催される特別支援教育センター研究発表会の内容を含め、後日ご報告させていただきます。

今回は、わかくさのICTを活用した授業実践とプログラミング教材ロボットをご紹介します。

## ○わかくさ学級のICTを使った実践事例について

### 高等部（校外学習でのリモート活用）

感染症防止のため、長期間にわたりベッドサイド学習が続いている。今学期、「校外学習」が実施可能となった。リモートを使用して、病棟内に残っている生徒に、校外学習で出かけた場所から、自分が今体験していることを伝える、生徒からの質問・評価・感想を受けるといった、同行教師以外とのかかわりやりとりを進めた。

一人の生徒は、知っている先生と画面を通してやりとりができることを喜んでいて、録画した動画とは異なり、一緒に学習している先生を通して天気や体感温度、今の気持ちなどを質問して、それに対する応答を聞いてさらに言葉を返すやり取りが成立した。

### 中学部（校外学習でのリモート活用）

昨年度、中学部は1名の在籍だったが、今年度は3名の新生を迎え4名となった。現在は病棟ごとの学習のため、病棟が違えば顔を合わせる機会がまったくない。誕生日カードのやり取りを行うとともに、リモートを活用してお互いを知る機会になればと、また生活経験の幅が広がるであろうリモートでの学習を進めた。

誕生日カードを送りあい、リモートでの働きかけがあったことで「同じ中学部の生徒」という意識付けができた。また、画面（聞こえてくる声や内容）への興味度が増し、画面へ視線を以前よりも向けるようになった。

### 小学部（運動会でのリモート活用・スイッチ教材の利用）

「応援を受けながら自分の活動に取り組む」「活動している友だちを応援する」という本来の運動会を意識した活動にしたいと、同じ授業時間の児童とリモートでつないで運動会を実施した。タブレット端末から名前を呼びかけられたり、「がんばれー。」という応援が聞こえたりすると、画面を意識して見る、表情が変わる、見られていることを意識して自分の競技に意欲的に取り組むなどの様子が見られた。

また、小学部ではスイッチ教材を利用し、自分でやりたい操作したいと思えるような教材を作成するとともに、その児童が自分で操作可能なスイッチを作成している。

（1スイッチが使用できれば、コンピュータすべてをそれだけで操作することができる。）

### プログラミング教材ロボット「フロロ」

プログラミング教材ロボットを購入しました。プログラムはブロックをパズルのように組み合わせて作ります。プログラムをフロロに送信すると命令通りに動き出します。フロロには物体や色を認識するセンサーがついているのでロボット相撲ができ、フロロを使った特別支援学校を対象とした、ロボットプログラミング選手権も行われています。

プログラミングの学習にフロロを使ってみたい先生や、興味のある先生は、ICT支援員さんが作成した分かりやすい資料もありますので、中学部の鈴木にお声かけください。

